

友誼の聲

THE VOICE OF FRIENDSHIP

2012年4月
第87号
日本語版

イエズス会中国センター
Tokyo Jesuit China Center
東京都台東区下谷 1-5-9 「上野教会方」
Tel : 03-3842-4407 Fax : 03-3842-4408
E-mail : jccstaff@gol.com
http://www.sjchina-japan.org

「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」

聖書のこの部分は、イエスがカナで最初の奇跡を行う前に、彼の母マリアが召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」(ヨハネ2・5)と言ったことを記しています。イエスは自分の時がまだ来ていないと考えていましたが、聖母の願いに応え、婚礼の祝いを円満に終わらせました。1984年、ディーターズ神父様は東京地区の中国語を話す信者たちの求めに応じて、主日のミサを始めました。でも中国語が分からないのでミサは日本語を用い、朗読、聖歌、説教を中国語に訳して行いました。数年後、ある信徒が台湾でローマ字表記の典礼書を手に入れたので、ミサ全体が中国語で行えるようになりました。1991年にはコシニー神父様が派遣され、イエズス会も元学生寮を提供し、中国センターには家ができたのです。

私は上石神井で学んでいた1994年、ディーターズ神父様と同じ修道院にいました。神父様は当時、センターのお仕事に直接は関わっていませんでしたが、中国人信徒への気遣いは相変わらずで、私にも中国管区へ帰るまで細やかな配慮をしていただきました。

それから10数年間、私たちは連絡を取り合っていませんでしたが、2009年のある日、突然、「柴からの呼びかけ一日本」という件名のメールを受け取りました。これは私の目を引きました。私の霊名の「モーセ」に関係するタイトルだったからです(注:出エジプト3章のいわゆる「燃える柴からの呼びかけ」)。私が前に住んでいた日本からなので、きっと特別な事情があるのだと思いましたが、読んで初めてディーターズ神父様が中国センターの所長を引き継がれたことを知りました。神父様は私にセンターの近況と要望を伝えられ、夏休みの間の2度の週末を使って、信仰における結婚の意義と、どのように信仰をもって家庭を聖化するかを、センターの信徒に理解していただくお手伝いをするよう、希望されたのです。

さいわい台北教区のマリッジ・エンカウンターの協力を助け、資料を提供してもらったので、私は中国センターの信徒と共に学び、成長できたのでした。2011年には地震、津波、原発事故の3つの困難が重なって起こり、多くの信徒は中国

に帰りました。私はふたたび中国センターに招かれ、家庭生活の中でどのように愛の関係を深め、いかにして良い親になるかを分かち合い、そして信仰の成長を助け、個人と神様との関係をどう深めるかを指導することになりました。ディーターズ神父様の呼び掛けのおかげで、異なった地域の中国人の必要に応えるという私の召し出しは、より広い一面を持つことになったのです。

日本でのディーターズ神父様とのやりとりを通して、私は神父様に強い中国の色を感じました。神父様はまさに論語にある「これを望めば儼然たり、これに即けば温やかなり」(子



(ヨハネ2・5)

張篇)という言葉にぴったりです。遠くから眺めると厳粛ですが、近くで接すると、とても温和だと感じるのです。私は日本に来るたび、神父様が必ず空港まで迎えに来られます。80余歳の神父様にご足労いただくのは恐縮ですが、神父様は必ず行くとおっしゃり、お断りできません。

とはいえ一緒にいる時や乗り換えの時間は、実はディーターズ神父様を手本にできる時間でもありました。都会の慌ただしい足どりの中にも神父様の悠然としたお姿を見ましたし、路上で出会う家のない人にも、神父様の気遣い、細やかな愛を感じました。長い間の日本生活で学ばれたことも詳しく正確で、プラットホームでは必ず階段のところか地下道の入り口で電車を降り、時間に余裕ができるよう早め早めの行いをなさっていました。

この度、ディーターズ神父様から管区長様が4月から井上神父様をセンター長に任命したことを知らされました。でも必要ならばできるだけ協力するともおっしゃっています。俗世界では神父様はとっくにご隠居様の年齢ですが、天の国を宣べ伝える教会にあっては、マッカーサーの名言「古兵は死なず」のようです。

神父様のお働きは神様から中国センターへの最良の贈り物です。皆さんがこの神様の愛の恵みを大切にしてくださいよう望みます。ディーターズ神父様がセンターで秘跡、ミサ、ゆるしの秘跡を行ってくださることは、私たちが神の子として生きるための力となるでしょうし、神父様がこれからも神様の声を伝え続け、私たちが心から「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と応えて、中国センターを第2の家として天の国の福音という良い知らせをより多くの人と分かち合えるのは、すばらしいことではありませんか。

甘國棟神父

うになります。私は25年前、上智大学キャンパスの聖堂で「中文ミサ」の集いが始まってから、片手間の関わりで多くの中国人信者を知り、一緒に祈り、たまには一緒に悩むこともありました。私にとって、それは50年前に友人となった中国人神父から知った、苦しんでいる中国の教会を手伝いたいという願いを果たす機会となったのです。

井上師にバトンを渡しますが、井上師は教諭としてのキャリアを終えて10年以上前から懸命の努力で中国語を学び、ごミサや秘跡を授け、信者の母国語で指導ができ、センターの運営についても経験があります。私は年齢が許す限りセンターに協力し続けるつもりです。

センターの責任を置く時、センターのスタッフ、有志たち、信者の委員会、それから上野教会の主任と信者の友情に溢れる交わりを思い出して、このような友と交わって生きる神父となってよかったです。感謝しています。

最後になりますが、この「友誼の聲」を読み、センターを祈りと援助でささえているかたがたに心から感謝し、皆様のご意向の為にごミサを捧げたいと思います。

R・ディーターズ神父



新しい服を着る“新人類”

聖パウロは言いました。「キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。更に、わたしたちは神の偽証人とさえ見なされます」(1コリント15・14-15)

これは、結局、私たちが「どうして信じているか」と聞かれた時の答えです。今の時期は、イエスが復活し、今も生きており、私たちと共におられることを信じ、その信仰に生かされたいと祈る季節です。私はこの祈りを、「友誼の聲」の読者に送りたいと思います。

ベネディクト教皇様が著書『ナザレのイエス』第2巻で指摘しているように、イエスの復活の時から、人類の進化が新しい段階に飛躍しました。大昔、ある動物に理性の光が着き、自由意志で自分の行動のよしあしを判断できるような原始人が登場し、神様の計らいで人類の文化が始まり、光と闇、罪と愛が入り混じった何万年の歴史を経てのち、マリア様の受胎によって人間となった神の独り子イエスが、死を通して復活されている姿。これが、以後の人間の姿となりました。人類の進化の完成の段階が始まったのです。イエスの姿は、私たちの完成された姿です。

「…御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。」(コロサイ1・18)

そして、

「わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」(エフェソ2・10)

私が育った環境では、復活祭のミサに参加する時、新しい服を着る習慣がありました。キリストの復活によって自分が新しい人間となっていることを証するためでした。

◇ ◇

さて、センターでは、おなじみの林桓師(パチカン放送中国語部門)が年の初めに訪れ、信者のために霊性指導や個人指導をしてくださいました。振り返ってみると10年前から、林桓師は毎年、サンタクロースのようにセンターを訪れてきました。

さらに数年前から数回の日曜日に、潘家駿師の大声が上野教会に響きました。霊性や祈りの指導の名人である甘國棟師も台湾から来日し、信仰を生きるプログラムを提供しました。今年も大型連休をまたいで、祈りの体験を指導する予定となっています。

また、台北の洪山川大司教様をはじめ、数人の優れた指導者をセンターに迎えることができました。信者が外国に居ながらも、信仰を深め、そして自国に戻ってからは社会の「パン種」となるように願いながら、同時に感謝しています。

復活祭の後、井上潔師がセンターの責任を引き受けるよ

庭師の花園にて

私が初めて「イエズス会中国センター」の信徒のために講座を行い、ディーターズ神父にお会いしてから、思えば10年近くが経ちました。ディーターズ神父様のおもてなしの姿から受けた印象、そしてお付き合いから気付いたことは、神父様が知恵ある年輩、慈しみ深い父、優しい師、親切な友人のようだという事です。

2009年と2010年の夏、私は夏休みを利用して特別に日本を訪ね、東京で1、2ヶ月を過ごしました。余心漢先生の計らいもあり、ディーターズ神父様とは初対面レベルから一歩進んだ理解に至ることができました。神父様のおかげで上智大学内のS Jハウスに滞在することができたからです。2ヶ月の間、主日には中国センターで、信徒のために「ゆるしの秘跡」とミサを行うよう、神父様は私をお招きくださいました。神父様と上野教会までご一緒する途中、毎回お聞きできた神父様のお話は、私にとって心を洗う旅でもありました。スマートな神父様は日本のタンチョウ（丹頂鶴）のようで、私をにぎやかな駅に連れて行かれましたが、騒がしさを気にする様子もなく落ち着いていらっしやいました。しかし私は、胸のうちでは司牧の温かい心があふれていたと感じ取っていました。神父様との道中で、休暇中の私の心を優しく揺り動かしたのは、その熱心な司牧の火花でした。

神父様が奉仕してこられた「イエズス会中国センター」をイエスの実り豊かな福音の畑と例えるなら、ディーターズ神父様はまじめな良い庭師と言えます。訪問と集まりを重ねるうち、この老庭師は花の言葉が分かり、花の心を理解する哲學家だと思ふようになりました。信徒たちは神父様と補充し合い、各々が持っている味わいを出せるのです。中国センターで神父様が福音の畑を耕して流した汗を見たり、S Jハウスで話をしたりする中で、私はいつも、この老庭師の信徒たちに対する気遣いを見たり感じたりしました。そして行いによる模範を通して、神様のぶどう園の庭師として、また福音の伝え手として生きるために持つべき態度を私に教えてくださるのです。

私はディーターズ神父様に、神へのへりくだり、そして人へのへりくだりを見ました。神父様の信徒に対する奉仕は、何もずば抜けた技や深遠な理論によっているわけではありません。それらも大切ではありますが、良い庭師になるための核心の所在ではないのです。

私は神父様が頼っているのは、神様との密接な関係、神様への深い信仰であることに気付きました。神父様は一人の福音の伝え手として、神様への信仰といのちに対する悟りを、宣教司牧の核心としているのです。ゆえに、この華人の共同体の中で、80余歳という高齢でも、なおたゆまず信徒ために教え、宣教し、司牧し、導き、祝う職務を果たしていらっしやるし、キリストの豊かないのちをこの世の民にもたらし、人々

のいのちが豊かな実を結ぶように助けていらっしやるのです。

ディーターズ神父様という神様の忠実な庭師と知り合えた幸運に恵まれたことをうれしく思います。どうか神様が神父様のご健康を祝福し、これからも皆と神様の偉大な愛を分かち合ってくださいることができるようになります。

ディーターズ神父様、ありがとう！

潘家駿神父

ある老人の話

ある老人がいました。怒った顔つきを一度も見せたことがなく、ほほえみが彼のシンボルマークで、最も愛した動作は「うなずき」でした。聞く時もほほえみ、話す時もほほえむ。そのほほえみの真心を疑う人はいませんでした。その目が澄みきっているからです。私はその笑顔の源がどこにあるのかわかりませんが、ただ彼の側にいる時は春風に吹かれているようでした。

ある老人がいました。90歳近い高齢で「アーオーウー」を習い始めました（＝中国語学習）。ふとした思いつきからではなく、まして暇だからでもありません。ただ、より良く中国人に奉仕したいためなのです。そのため毎日自習し、毎週聴講しました。1冊の赤表紙本が日曜日に祭壇に上がる時の必需品です。彼は何を言っているのかを中国人により良く分からせるために懸命にその本の中国語ローマ字を1字1字読み、神聖な祭儀に溶け込ませようとしていました。

ある老人がいました。聖書教義に精通し、話は深く分かりやすいのに、謙虚ゆえか、より良い共同体への奉仕ゆえか、共同体のために外から神父様たちを招いて話をしてもらったのです。そのために彼は高齢をものともせず、空港や駅まで遠路、往復しました。外国からの神父様たちが中国語で何時間も話す間、彼は内容が分からなくてもずっと同席し、退屈そうな素振りもまったく見せませんでした。皆が笑う時は、なぜおかしいのか分からなくても一緒に笑っていました。

ある老人がいました…。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」(1コリント 13:4-7)。聖書のこの言葉を読むたびに、私はいつもこの老人が目に見えます。

この老人は誰ですか？

彼の名前はロバート・ディーターズ。20数歳ではるかに海を越えて日本に福音を伝えに来た人なのです。

柯 桂春

ご挨拶

(中国センター代表者交替)

主のご復活、おめでとうございます。皆様も恵み多きご復活をお迎えになったことと、心よりお喜びを申し上げます。

さて、この度、イエズス会日本管区長梶山義夫神父より、この私ごとき者が、この信仰共同体『イエズス会中国センター』の責任者を仰せつかりました。前所長 R. Deiters 神父さま長期にわたる貢献の後、小生如き者が中国センターの責任者としてふさわしいかどうか少々不安ですが、神様のご保護・支持を祈りながら、中国からの信徒の方々、また援助・協力して下さっている皆様に迷惑がかからないように、心して頑張っていきたいと思ひます。皆様の今後のご指導を心からお願いする次第です。よろしくお願ひいたします。

現在のこの中国センターが実施しておりますことは、日本に来ている中国人信徒の霊的配慮（ミサ等秘跡の執行）が主な仕事ですが、年々中国人信徒の数が多くなってきているなかで、私は最近次のような事も必要になってきているのではないかと考えるようになりました。つまり、彼らの出身の教会との関係を取り始めること、別な言葉で言うならば、中国の教会との橋渡しの仕事です。3～4年前から毎年台湾から数人の神父様が来て下さり、日曜・祝祭日のミサを行って下さったり、黙想会を指導して下さったりしています。数年前には台北の洪大司教さまもわざわざ来て下さり、信徒と交流をもち、更には力づけてくださいました。このような交流を、将来は中国センターの多くの信徒の故郷であります福建省内の教会（主に地下教会でしょう）・神父様方と取れたらと思ひますが、いかがでしょうか。更には香港、マカオ、中国の他の地域の教会（勿論、正統な信仰を伝えている教会）とも交流が持てればすばらしいのではないのでしょうか。まだまだ先は遠いですが、そのような方向で頑張っていけたらいいな一、と思ひています。

最後に、私の最近の祈り、願いを紹介いたします。

この日本において、中国語の出来る聖職者、特に司祭を、神様がこの中国センターにもう少しお送りくださるよう、と祈っています。昨年より神言会の楊神父さま（吉祥寺教会助任）が毎月一度中国センタを手伝いに来てくださっていますが、まだまだ足りません。中国人信徒の増加に見合うような司祭（中国語可能な方）の増加、これからの課題だと思ひます。この願ひができるだけ早く実現されることを願ひ、私の挨拶文を終わりたいと思ひます。

2012年3月15日
イエズス会駒場修道院
井上 潔

お知らせ

聖週間の典礼

聖木曜～聖土曜

時間：7:00 pm～

場所：上野教会

ご復活祭

赦しの秘跡：10:30 am～

ミサ：12:00～

パーティー：ミサ後

場所：上野教会

甘神父と「信仰と生活」を

考える集い（中国語）

日期：4月29日（日）と5月5日（土）～6日（日）

場所：上野教会1階第一ホール

指導司祭：甘國棟神父（イエズス会中国管区所属）

申し込み先：イエズス会中国センター

締め切り：4月27日

《人事に関して》

イエズス会中国センター所長が、4月1日付で、ロバート・ディーターズ師から井上潔師に代りました。なお、中国センターのメールアドレスも変わりました。新しいアドレスは jccstaff@gol.com です。

